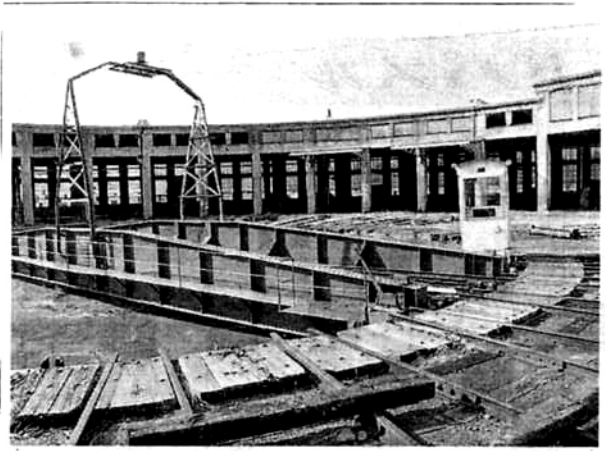
よみがえる文化財

□■31

吉備国際大助教授
小西　伸彦氏

近代化遺産に学ぶドラマ

美術品修復の現場から



【国鉄津山蒸気機関庫】昭和11（1936）年の姫新線全通にあわせて新設。17の小屋を持つコンクリート製扇型機関車庫で、各小屋の寸法は柱内幅3.5㍍、入口高5㍍、奥行22㍍、転車台側の全高は7.1㍍、背面は6.7㍍。背面上部はサッシュバーによるはめ殺し窓、下部は横軸回転窓で構成され、外光の取り入れ面積を大きくしてある。陸屋根はフラットスラブ構造の梁が抜いてあり、前面の柱は0.6×0.65㍍の角形、庫内は各小屋間2カ所ずつに置かれた直径0.65㍍のコンクリート丸柱34本が天井を支えている。完工当時の写真では、天井に排煙用の煙突が写っているが、現在は失われて丸い穴があいた状態。昭和11年18両、同26年32両、同36年には29両の蒸気機関車が配属されていたが、同46年3月、姫新線、芸備線、津山線、吉備線から蒸気機関車が全廃され、津山機関区もSL基地としての機能を終えた

◆消えた機械や建物

長崎県端島、通称「軍艦島」は、1974年に廃鉱となった三菱の炭鉱島です。この無人島に人気が集まり、世界遺産に推す運動があります。熊本県荒尾の三井炭鉱万田坑跡（国指定重要文化財）は修学旅行コースになっています。明治、大正の建造物を生かした福岡県の「門司港レトロ」は年間100万人が訪れる観光地です。倉敷アイビースクエアは1889（明治22）年に創業が始まった倉敷紡績の工場でした。

古い寺社や美術品などは文化財として保護されてきました。しかし、江戸時代以降、西洋の文化や技術を取り入れて生まれた建物や機械などは、保護を受けることなくたくさんのものが失われてきました。特に産業や鉄道の「遺産」は急激な新旧交代に伴って貴重なものが消えていきました。

「遺産」とは遺跡や遺構だけでなく、人間が創ってきたものの中で、将来に伝え残すべきものの総称です。その貴重な「遺産」を守るために文化財保護法も改定され、岡山の京橋火の見櫓が登録有形文化財に答申されました。火の見櫓の文化財登録は県内では初めてのことです。

◆県内にも「時代の証人」

古代遺跡の発掘・調査は市民権を得ていますが、近代化遺産は惜しげもなく壊され、知らない間になくなっています。文化財は人間が創造した美しいもので、人々が将来に夢を持っていた時代の証人です。機能重視の今日にはない美しさが棲んでいますが、失われてしまった技術も多数あります。

笠岡には日本に数例しか残っていない、レンガを焼くホフマン式輪窯跡があります。栃木、埼玉、舞鶴のものは有名ですが、笠岡の窯跡はあまり知られていません。いつ壊され、永遠に歴史から消え去っても不思議ではない状態です。

津山には扇形の機関車庫が残っています。蒸気機関車が向きを変えた転車台から放射線状に伸びた線路と車庫は、京都の梅小路蒸気機関車館（国指定重要文化財）と同じ構造です。

早島や児島、井原には、北窓から均等な明かりを取り入れる鋸屋根の繊維工場群があります。岡山の水道記念館と半田山配水池には意匠を凝らした水道施設があります。

◆見えてくる社会、人間

これら近代化遺産には機能から生まれた姿や、機能を装飾した形があります。機能美は人間工学に、装飾美は美術につながります。前者が用の美しさなら、後者は芸術の美です。近代化遺産を調べると、その時代や経済の背景、地域の特徴や共通性も見えてきます。それは、社会を学ぶことであり、人間の営みを見直すことでもあります。

今まで近代化遺産研究の主役は建築学の専門家でした。優れた研究や出版が多数なされ、写真集の発刊も増えました。産業考古学会などの学会やサークルもあります。岡山県は昨年3月「岡山県の近代化遺産」をまとめました。

私の研究室では、近代化遺産の記録を通じて、近代の人間のドラマを学んでいきたいと考えています。

【ＪＲ門司港駅（福岡県）】門司港レトロ地区の玄関に当たり、大正３（1914）年に建てられたルネサンス様式の駅。国の重要文化財に指定されている

きびだん談語

ハンセン病の元患者が住む群馬県の国立療養所「栗生楽泉園」を先日訪ねた。冬は雪に閉ざされるこの地に、1938年から9年間、"反抗的"とされた患者を監禁するのに使われた通称「重監房」の跡地が残っている。

▲実家でその話をすると、「療養所にはまだ誰か住んでいるの？」と聞かれて脱力した。が、恥ずかしながら私も、約3年前に岡山に配属されるまで、県内に療養所があることをよく知らなかった。▲ハンセン病国賠訴訟にかかわった弁護士が自分を振り返り、「無知による不作為の罪深さ」を語る講演を聴いたこともある。記者にとっても、手探りでもとにかく前へ進まなくては、と思わされる言葉だった。

【傳田賢史】

×　×　×

「よみがえる文化財」は今回で終わります。ご愛読ありがとうございました。